

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
豊かな人間力をそなえ、自ら学ぶ たくましい子どもの育成 ～「ほかほか言葉」と「笑顔」で学ぶ すこやか開成っ子～	1. 心の教育の推進 2. 学力向上の推進 3. 地域連携教育の推進

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価						
① 魅力ある授業づくり(授業づくり)						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
学校運営	1 教職員の指導力向上	校内研修・授業研究会の充実	○校内研修で、研究主題を「主体的な学びの創造」とし、国語科を中心に研究を進める。「読むこと」を通して獲得した知識を活用し、自分の考えを相手に分かりやすく伝えたり、相手の考えを的確に理解したりする力、質問する力などの育成を図るために、対話的に学習を深めさせていく授業実践に取り組む。	・自ら考え、「伝え合い深める」活動を取り入れた授業を構築し、全教諭が授業実践を行う。 ・全体授業研究会を通して、「伝え合い深める」活動の研究や授業の方向性の共通理解を図る。 ・めざす児童像を明確化するために、一覧表にまとめる。	まなび部	吉岡・指導教諭
教育活動	2 ●学力向上	国語科・算数科を中心とした基礎基本の徹底	○「めあて」設定から「まとめ・ふりかえり」までを行う指導過程に改善する。(80%以上の授業) ○「一人でタイム」でじっくりと考えさせた後、協働的に学び合う「友だちタイム」の場を設定する。 ○学習習慣の徹底と落ち着きのある学習態度の定着を図る。	・「授業のステップ1・2・3」を使い、学習の流れを揃え、板書とノートの書き方をゆるやかに統一して、全児童が能動的に参加できる授業を行う。(80%以上の授業) ・1人で書き留めたメモ等を生かして、2人から4人のグループで深い学びを得られる話し合いを持たせる。 ・生活習慣のチェックカードを使用し、学習用具準備や正しい姿勢等を振り返らせるとともに、家庭学習の徹底を図る。家庭学習では、各学年の目標時間を設定し、主体的な学習に取り組むことができるように指導する。	まなび部	飯盛・小柳・主幹・指教
	3 外国語活動	外国語活動の充実	○外国語活動を楽しみとする児童を85%以上にする。	・5・6年では、外国語活動をALTと担当で協力し、週に1時間実施する。 ・3・4年では、ALTとの協力で活動的な要素を取り入れた授業に取り組む。 ・1・2年生までのクラスでALTと担任による「外国語活動」の時間を1時間以上設定する。	まなび部	工藤・秋永
② 道徳・人権教育の推進(心づくり)						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	4 ●心の教育	道徳・人権・同和教育などを核とした心を育てる指導の充実	○人権・同和教育を全教育課程の根拠とした教育活動を構築する。 ○子どもたちの自己肯定感を高める教育実践を重ねる。	・人権教室(年5回)・人権集会(学期に1回)・道徳等の授業を通して、子どもたちに人権尊重の感性を育てる。 ・参観日やフリー参観日において、ふれあい道徳の授業や人権学習等を公開する。(地域連携) ・子ども同士の認め合いの場を設定し、ほかほか言葉を増やす取り組みを行う。	こころ部	前山・仁位
	5 ●いじめの問題への対応	いじめの早期発見・早期対応に向けた体制づくりの充実	○スクールカウンセラーや保護者等との連携を図りつつ、担任を中心とした実態把握に努める。 ○教育相談体制を充実させて、問題の早期発見、早期対応に努める。	・生活連絡会、教育相談全体会および教育相談G会議等を利用し、職員間の共通理解を図る。また、必要に応じて職員の研修を行い、職員の資質向上に努める。 ・毎月行う児童対象のいじめに関するアンケートや、「ほっとタイム」で実態をつかむとともに、Q-Uテストで学級における人間関係を把握する。 ・いじめが分かった初期の段階で、職員で事実確認をし、対策の検討および指導を行う。	こころ部	徳永・松尾幸
	6 環境美化	校内・校外の環境・美化活動の充実	○ごみが落ちていない美しい学校をめざすとともに、ゴミの減量化、節電を中心とした環境ISOに取り組む。 ○掃除の始まる時刻を意識し、集中して活動することで、一生懸命に取り組む児童を育成する。	・ごみを落とさない、ごみを進んで拾うように指導する。 ・ゴミの分別や記名の徹底を図るとともに、裏紙の再利用などに努める。 ・節電、節水を心がけ、省エネ・省資源に努める。 ・無言掃除を行い、集中して掃除に取り組めるように掃除の方法や手順を指導する。 ・掃除の始まり、無言そうじの内容、片付け等について時間を設け反省カードでふり返りを行う。	こころ部	淵・松尾幸
	7 読書指導	学校図書館の活性化と読書指導の充実	○目標を達成しやすくするために学期ごとに分けて目標冊数を提示する。 ○学年にあった本(必読図書)を、7割の児童が目標冊数を達成できるようにする。 ○図書館を活用した調べ学習を推進する。	・学級全体の貸し出し数を増やすために「めざせ〇冊」などの取り組みを推進し目標冊数に達した児童に賞状を準備する。 ・「朝の読書タイム」、読み聞かせの時間を全校あげて設定する。 ・各学年の必読図書を読むよう推進し、目標達成者を表彰する。 ・総合的な学習の時間に、出典等について確認しながら調べ学習に取り組ませる。	まなび部	中野・飯盛
	8 交流活動	縦割り活動における異学年交流や、ろう学校との交流会の充実	○「わいわいタイム」での異学年交流活動を充実する。 ○ろう学校に出向いたり、来てもらったりして交流を実施する。 ○地域(老人センターや保育園)に出向いて交流を実施する。 ○各学年で、具体的目標を定めて、交流を行う。	・春の遠足、運動会、縦割り遊び、ありがとう会食会等の活動を通して、異学年交流に取り組む。 ・ろう学校児童を学校や授業などに招待したり、出向いたりして交流を行う。 ・ろう学校の児童と手紙などのやりとりを行い、交流を深める。 ・交流委員会を中心に地域との交流を行う。	こころ部	山崎
③ 生徒指導・教育相談・特別支援教育の充実(心づくり)						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	9 特別支援教育	配慮を要する児童についての共通理解	○特別支援教育関係等機関の講師を招いての研修会を開催する。(年1回) ○校内支援会議を適宜開催し、特別支援教育の充実を図る。	・個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成の研修会を実施する。 ・個別の指導計画の作成時間の確保(月1回) ・配慮を要する児童の共通理解のためのファイル作りや校内支援体制の取り組みを行う。 ・支援の手立てについて共通理解したことを、対象の児童の指導・支援に活かす。	こころ部	香月・山崎

④ たくましい体と粘り強い心づくり(体づくり)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
学校運営	10 危機管理	不審者対応、災害時(大雨、台風、地震、大雪等)における緊急時の組織づくりと具体的対応	○大雨や台風、地震、大雪、不審者事案等、実際の事象や事例に基づいて指導をすることで、児童の防災・防犯の意識を高める。 ○安全な避難に重点を置いた、危機管理体制の充実に図り訓練を実施する。(年3回)	・各種事例に対応できるように危機管理マニュアルを更新し、児童と職員を対象とした実践的な防災・防犯訓練を行う。 ・現在ある安全マップを更新して活用し、校区内の危険個所の点検を実施するとともに地域の人と協力して登下校の安全確保に努める。また安全についての児童の意識化に努める。(毎週金曜日、当番職員で学校周辺を一緒に下校し、下校指導に当たる。) ・安全ボランティアと協力し校区あげて安全指導に取り組む。 ・校内の安全点検を毎月1回行い、児童が安全に生活できる環境をつくる。 ・緊急連絡メール登録による迅速な連絡体制を整える。	こころ部	園田・陣内・教頭
教育活動	11 ●健康・体づくり	体育・学級活動・保健指導など、授業実践	○保健教育、食に関する指導、組織活動等において、養護教諭や栄養教諭による専門的な指導(各年間3回)を行い、健康な体づくりへの関心を高め、行動変容への意欲につなげる。 ○外部講師の活用を積極的に行う。(年3回) ○保健タイム等を通して、児童に各担任が指導を行う(年3回)	・健康保健教育については、担任と養護教諭などのTTによる授業を行う他、歯科校医や外部講師を招いた授業等を行う。 ・食に関する指導について、給食マナーや食生活の大切さ等、担任と栄養教諭が連携して授業等を行う。 ・学期に1回、朝の時間に「保健タイム」を各担任が行う。資料については、児童保健委員会と養護教諭が作成した保健指導用スライドを使用する。 ・運動の大切さについて、体育や保健指導を通して、担任が行う。	すこやか部	宮原・野田・藤原・馬場

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
学校運営	12 学校経営	本年度の学校教育目標と目指す子ども像の周知	○教職員、児童の認知度を90%以上にする。 ○保護者の認知度を85%以上にする。	・学年便りや学級便りにも記載し、周知する。 ・保護者や地域住民へは、ホームページへの掲載、学校パンフレット配布及び学校便り、PTA総会、学年・学級懇談会等で周知し、具体的取組について説明する。	こころ部	校長・教頭
	13 業務改善・働き方改革	業務の効率化と年次休暇の取得推進	○職員会議や連絡会等において、提案の仕方や時間を示すなどして効率的な会議を目指す。 ○年次休暇10日以上(年)の取得を目標とする。 ○定時退勤日を金曜日に設定し、週1日は、早い時間に退勤する習慣をつける。	○職員会議や連絡会等において、I-schoolを使うことで、学校行事等の効率的な運営 ○夏季休業中には、様々な研修をできる限り同じ日に重ねることで年休の取りやすさを増やす。また、個人も取得目標日数を決めて取り組む。 ○定時退勤日は、学校施設時刻を18:30に設定し、徹底する。	こころ部	教頭・指教
	14 開かれた学校づくり	学校教育活動の情報発信 地域人材活用	○ホームページ更新や学校便り等で、定期的に情報発信をしていく。 ○学校行事等への地域ボランティアの活用を積極的に行う。(前年度より活性化) ○教科等の学習において、地域ボランティアや外部人材を取り入れた学習を年1回以上行う。	・ホームページを月1回程度更新する。月末を更新時期と定め、更新を促していく。また、学校便りを月1回以上発行する。 ・ボランティアの拡大と地域人材の発掘を行い、活動の促進と工夫を行う。 ・スキルタイム、読み語り、クラブ活動等で地域ボランティアの活用を計画的に実施する。	まなび部	中野か・田代・主幹
特定課題	15 幼・保・小・中連携	幼・保・小・中連携による学校生活へのスムーズな移行	○幼・保・小・中間の連携会議や授業交流を進める。(年間4回) ○小・中間の生徒指導の情報交換を行い、連携の強化を図る。	・わくわく訪問の参観後や幼保小連携会議で幼稚園・保育園との情報交換を行い、相互理解を図る。 ・1年生と園児との交流会や学校体験活動により、スムーズな接続を図る。 ・小6から中1へのスムーズな移行をめざし、「体験入学」や授業交流の改善を図り、実施する。また、小中交流(6年)を行い、友だち関係に対する不安を除く。 ・小・中合同の連絡会議を学期毎に行い、生徒指導に関する情報の提供を進めるなど連携をとりながら問題の解決を図る。	すこやか部	前山・指教